

1 + 1 = 4 の意味

期待するのは化学反応

2019.04.09

No.63

校長 渡邊 幸二

昨日は入学式。いよいよ新1年生が登校してきました。上級生となる2年生以上の子どもたち、特に学校を引っ張る6年生がどう動き出すのかが重要です。もちろんこれも、6年担任だけの話ではありません。すべての子どもたちにとっても大事なことです。各担任はしっかりと子どもたちにご指導ください。

自分のクラスで生徒指導上の問題が起きたとしても、それは学校全体の問題である(6年生対象の全国学調結果が全校の問題というのと同じこと)。生徒指導に関する問題・話題は常に打ち合わせ等で共有し、学級王国でない全校児童の担任であることを意識したい。いじめもそうだが生徒指導上の問題も、自分だけの基準で「大したことはない」「解決済みである」と判断せず、必ずチームリーダーや教頭に報告したり相談したりすること。リーダーズミーティングで協議が必要と判断した場合、それを職員会議に付し、具体案についてはチームBに願う。(「浜田小学校の組織と運営」P7より)

① 一丁前の人間として成長する生徒指導

生徒指導は、すべての教職員に課せられた共通の業務である。また、授業をはじめ教育活動全体の中で機能しているのが生徒指導である。生徒指導に関する情報を共有し、浜田小学校の子ども全員を担任している意識で確実に指導にあたる。(「来年度の校内人事・校務分掌の構想について」P4より)

昨日の入学式では、2年生のS.AさんとS.Kさんの「お迎えの言葉」が圧倒的に光っていました。「1年経つと、あんだげ立派に育つんあんの〜！」来賓でいらした地域の方も感激していました。1年生と2年生、たった1歳の違いですが、大きな成長を期待させるに十分なスピーチでした。



システムだけでは物事は動かない！大切なのは……



さて、入学式の式辞では、昨年の1学期始業式の話の別バージョンのお話をしました。子どもたちは「1 + 1 が3にも4にもなる」って話をしたら、「えーっ!?!」っていう反応でした。学校研究のサブタイトルにもなっているのですが、子どもたちに浸透していないという点はちょっと残念でした。校長室だよりNo.58「新年度のスタートに際して①」にも書きましたように、何か物事に取り組む、あるいは推進していくとするとときには、システム(仕組みや取り組みなどの枠組み)とマインド(意識化、共有化)が絶対に必要です。物作りの機械(ハード)だけつくっても何も生み出さないように、それを動かすエネルギーやノウハウなど(ソフト)がいるのと同じです。対話的・協働的な授業をめざす上でその本質を突いているサブタイトル「1 + 1 が3にも4にもなる」がわかっていないということは、先生方が子どもたちにマインドの部分をおろし

スタートに際して①」にも書きましたように、何か物事に取り組む、あるいは推進していくとするとときには、システム(仕組みや取り組みなどの枠組み)とマインド(意識化、共有化)が絶対に必要です。物作りの機械(ハード)だけつくっても何も生み出さないように、それを動かすエネルギーやノウハウなど(ソフト)がいるのと同じです。対話的・協働的な授業をめざす上でその本質を突いているサブタイトル「1 + 1 が3にも4にもなる」がわかっていないということは、先生方が子どもたちにマインドの部分をおろし

ていない、つまりその意味を語りかけ、子どもたちと思いを共有していないということではないかと思うのですが、昨年をふり返りいかがだったでしょうか。

学校教育目標の具現化や生徒指導を推進していく上で、昨年度チーム浜田としてはチームワークがもう一步だったような気がします。もっとベクトルを揃えて(これも以前言いましたが盲従とか滅私奉公ということではありません。議論した上で、です)、ある意味かなり強力に進めなければ大きな山は動きません。教師自身の「きく」態度が問われていると思います。

1 + 1 = 4の意味

逆に、昨年度の学校研究を前のめりで推進されてきた先生方やそのクラスの子どもたちは、昨日の私の話を「そうかなあ？もっとあるんじゃない？」など、どこか違和感を覚えながら聞いていたのではないかと思います。



昨日の1年生に提示した状況は、「1 + 1 = 4」のごく基本と考えるべき図です。上の図はもしかすると「1 + 1 + 1 + 1 = 4」のお話に近い状況かもしれません。でも、この「きく」から学び合いが始まるパターンはとても大事なことだと思います。友だちに説明している中で学びが深まるし、聞いているほうも納得がいく…。これも1 + 1 = 4なんだと思います。この基本を大切にしながら、「もっとある」と感じた方は、さらに「深い学び」を期待しているのだと思います。たとえば1 + 1で話し合っ、さらに深い意味や価値に気づいたとか、別の新しいアイデアが浮かんだとかいう場面を1 + 1 = 3とか4と考えているのだと思います。それも高みの学びとして嬉しいのですが、写真のように4人で話し合っているうちに、いろんな考えが錯綜して、ますますこんがらがっている、「わからない」が深刻になってしまっている場面でも、それは「深まっている」と捉えていいと思うし、ちょっとした発想が浮かんだなんていう場面も深い学びになっていると思うのです。



1 + 1をしたときに化学反応が起きて、何か熱を発したり、逆に冷たくなったり、沈殿物ができたり蒸発したり、もしくは爆発的な事象が起きたり…という「反応」が深い学びにつながるのだと考えます。ですから、今年のキーワードは「きく」であり「反応する」でいいと思うのですが…。みなさん納得して、子どもたちにおろしていただけるでしょうか？